

大島の地域資源と舞台芸術を

【特集】

つなぐ

犬島の地域資源と舞台芸術をつなぐ

財団法人福武教育文化振興財団創立 25 周年記念事業「犬島 海の劇場」の一環として、今秋 9 月、犬島の扇型に広がる入江を舞台にした維新派『風景画』、10 月には島全体を舞台にした移動演劇・宮本常一への旅「地球 4 周分の歌」の 2 つの新作を上演しました。
今号は、この 2 つの作品についての感想を演劇関係者、一般公募の出演者、本公演にご協力をいただいた方々に、寄稿していただきました。

— 維新派『風景画』公演 作・演出=松本雄吉



松本さんから入江を舞台にしたいと聞いたときは、島の人間でも入ったことがない入江で、本当にできるかどうか心配だった。足がどれだけぬかるか予想できなかったし、潮の満ち引きも季節によって違うし。どうすれば役者が動きやすくなるのか、自分なりに考えて松本さんに話したりもした。

今回もたくさんの方が犬島に来てくださった。県外の方も多いと聞いた。少しでも気持ちよく帰ってもらうために、きれいな犬島にしておくことをこれからも大切にしたい。そのための労力は惜しまないし、協力もしていきたい。

安部寿之 犬島町内会長、岡山市東区犬島在住

少しでも気持ちよく



Photo all by ; Yoshikazu Inoue

太田耕人 演劇評論家、京都教育大学英文学科教授、京都市在住

あざやかな「美術」描く

弧をなす岸辺に俳優がぐりと並び、海の神を言祝ぐように手を打つ。自然に敬虔な祈りを捧げ、自らの表現で風景に切り込む——まさにその決意をあらわす冒頭だったと思う。

維新派『風景画』の犬島公演は、壮大な美術で知られる松本雄吉があえて美術を一切つらず、かわって風景をまるごと取りこんだ。

一人の俳優が膝まで海に入り、屹立したかと思うと、一人また一人と海へ降り、やがて二十人余りの俳優が座標をつくるかのように入り江全体に整然と広がる。点から線へ。そして図形へ。やわらかな光に包まれた瀬戸内の自然に、峻厳な幾何学的構成が対置され、あざやかな「美術」となった。

ノアの箱船以来の人類の歴史が歌われ、犬島の過去が語られる。死者の野焼き、島民運動会、犬島音頭、硫黄工場設立時の福島からの移民。のどかな風景の背後にある島の歴史が、みごとに立上がった。その瞬間に立ち会えたことを、私はいつまでも忘れないだろう。



犬島の方々の話から、一般公募者で犬島のことを伝えるシーンを創り、上演する。それは思ってもみないことでしたが、制作過程で繰り返した試行錯誤の連続は、犬島を深く知り、主宰の松本さん、維新派の方々、一般公募の仲間達の様々な考え方、物の見方を学んだ濃密な日々でした。本番では維新派の皆さんと寝食を共にし、その温かさ、意識の高さなどを肌で感じ、本物を知る刺激的な日々でした。この公演に参加できたことを誇りに思います。

金崎洋一 「風景画」公募出演者、ダンサー、高松市在住

本物を知る刺激的な日々

波の音だけの舞台上で手話表現

内海美樹 「地球4周分の歌」 公募出演者、調理師、美作市在住

私は手話と出会って19年。仕事で手話と関われない時期もありましたが、何故か止めてしまおうとは思いませんでした。今回の移動演劇で、私は『忘れられた日本人』を手話で表現しました。海を背景に、ただ波の音だけの舞台上で、手話表現はどんな風に映ったのか…他の出演者のパフォーマンスを、犬島の風土と石を運ぶ人によって、演出家の言う『記憶と出会いの演劇』が、どんな舞台になったのか…私も観客になって体感してみたかったですね。



想像つかなかった「移動演劇」

豊田一男

あけぼの丸船長、岡山市東区宝伝在住

春に予定していた「ささやき」の時もそうだけど、宝伝港から演劇が始まる「移動演劇」というものが想像つかなかった。実際にやってみると、定期便との兼ね合いがあるから、演劇に合わせてあけぼの丸を時間調整するのが難しかった。あと、「乗れます？」と聞かれて、チャーター船だからと断ると「維新派のときには乗れたのに」とか言われて、困ったりした。

犬島に定住してくれる人がいたらいいなと思いながら仕事をしている。ものづくりをしている人なんかいいと思うのだけれど…



移動演劇・宮本常二への旅

「地球4周分の歌」

演出 村川拓也

犬島での「移動演劇」に参加した。維新派の公演で来たことはあるが、昼間にこれだけ長くこの島にいたのは初めてである。

船に乗っている時間も含めた、島全体を体験する企画はたいへん興味深く、さまざまな工夫を楽しんだ。島の魅力そのものを活かすためには、やり過ぎてはいけない面もある。そこで、ある種の「緩さ」を潔く選択した所が、慧眼であると思った。「創作」に混じって、島に住む方々が見せてくださったさまざまな表情、「興味がおありなら」と島の歴史を語り出された瞬間は、演劇表現が「虚構の提出」を目的とするのではなく、本質的に「ライブの体験」そのものであることを、再確認させてくれた。

半世紀にわたり牛窓の海と慣れ親しんできた私ではあるが、前島以外の島とはあまり縁がなく、維新派の犬島登場には心底驚かされた。そして今回は、この島が、過去と未来、全体と周縁の「対話」の場として、この十年ほどの時間に育まれてきたことを受けとめられた、充実した一日だった。

過去と未来、全体と周縁の「対話」の場

坂手洋二 劇作家・演出家、燐光群主宰、東京都在住



Photo all by : Daisuke Aochi

日本人である前に 地球人であれ

——福武理事長がプレ体験留学で講演——



「将来を君たちに託したい」と
語りかける福武理事長

2011年8月15日から7日間、昨年度に引き続き海外進学を目指す岡山県の若者を対象にしたオーストラリアの総合職業専門学校(TAFE)を訪れるプレ体験留学を実施しました。
今回は主にシドニーのCrows Nest TAFE College内にある英語学校で体験学習を行い、5日目には福武総一郎理事長からの講演もありました。

福武理事長講演要旨

君たちも感じていると思うが、日本の将来はむずかしい。日本は、原料を輸入して、技術力で製品を作り輸出する加工貿易で成り立っている国で、世界との関係、コミュニケーションがないとやっていけない国だ。世界の共通語である英語は、日本語と同じくらい話せないといけない。英語のコミュニケーション力は、自分の生きる場や活躍の場を広げる。

しかし、英語を話すことは、世界で活躍するための能力や可能性を高める手段で、目的ではない。

私は、英語力と世界で働くためのスキル、更に望む人は学位も得られる教育制度を持つ国はどこだろうかと調べた。その結果、オーストラリアのTAFEに行きついた。TAFEで勉強して、サーティフィケートという証明をもらうと、社会全体で能力を評価してもらえる制度ができている。また、勉強に必要な英語力を身につけるために、留学生向けの英語学校もある。

留学生なら、TAFE付属英語学校で1年英語を勉強して、TAFE本科で1年学び、頑張ってディプロマという資格を取ると、大学2年に編入できる。つまり、英語力とスキルと学位を、日本の大学と同じ4年で獲得し、さらに世界に友人もできるのだ。

私は、この制度を日本の高校生に紹介し、より安心して留学できるようにサポートするシステムとしてGCAを作った。

世界を知らないと、よりよい日本を作ることができない。世界を見ないで自分の経験だけで判断しても、世界を知っている人には勝てない。いろんな国の、考え方が違う人々と接することが勉強になる。世界を知ることによって活躍の場が広がる。日本人である前に地球人であれ。

時間は誰にも平等に与えられている。時間の使い方は大切だ。計画的な時間の使い方を身につけてほしい。現代社会を勉強し、世界の流れをみる努力もしてほしい。

今、君たちには、目的を持って将来使える勉強や糧になることをやってもらいたい。そして海外で活躍することを、ぜひ将来の選択肢のなかに入れてほしい。日本人はもっと世界に出なければならない。

日本の将来を君たちに託したい。



プレ体験留学参加者の体験記を集めた報告書が出来上がりました。必要な方は財団事務局までご連絡ください。

受

伊藤、小谷両氏に文化賞
椿苑さんら二個人二団体に奨励賞

賞

財団では、岡山県の文化の向上に貢献した方々の功績を顕彰し、福武文化賞・同奨励賞をお贈りしました。第12回目となる今年度の受賞者は次のとおりです。

福武文化賞



伊藤謙介

若手美術家育成のための「I氏賞」の創設や、故郷高梁市の子供たちの育成支援など、社会における芸術文化の重要性、人にとってのふるさとや地域文化の大切さ、青少年に対する熱い想いをかたちにして実践し続け、岡山県の文化芸術の発展に大きな功績をあげている。



ガラス工芸家

小谷眞三

不自由な道具や設備を自らの手で改良しながら積み上げた「自分流」の手法により、身近に置いて使える美しい「倉敷ガラス」を生涯をかけて創り育てた。「倉敷ガラス」は、今や日本を代表する民藝の美として評価され、地域の活性化にも大きく貢献している。

福武文化奨励賞



洋画家 椿苑

「巨木」「古木」を主なモチーフとした力強い筆跡は、木の生命感を圧倒的な重厚さと存在感で示し、見る人の想像力をかき立てた記憶の中に生き続ける作品となっており、今後ますます純度を増し昇華していくことが期待される。



俗曲師 檜山うめ吉

三味線で江戸から昭和の庶民のはやり唄を唄う俗曲師として、日本の「粋と艶」が生きた芸をはじめ、ジャズを融合させた自由で楽しい音楽にも取り組んでいる。活動は世界各地に及び、艶やかさと芸への情熱のある和のエンターテイナーとして注目されている。



白石踊会

白石踊を伝承するために島民全員が会員となり、地元の小学校や中学校と連携し指導を行うほか、出前講座の実施等、伝統行事の維持にとどまらず記録、調査研究にも努めるなど伝承と普及に取り組み、地域社会の中心的な担い手となっている。



特定非営利活動法人 バンクオブアーツ岡山

ルネスホールを保存・管理運営する一方、会員の多彩な能力や人脈を生かして多方面にわたる自主事業の展開を図りつつ、地域社会の新たなライフスタイルを生み出そうとしており、岡山県の芸術文化の創造・発信に欠かせない存在となっている。

い
た
だ
き
ま
す
。

杉浦慶太

津山市大吉（旧勝北町大吉）、晩秋。豊かに実った稲穂が収穫を待っています。私が暮らすこの地では写真のような光景が秋になると至る所で見られ、実りの季節を知らせてくれます。子どもの頃から見慣れた風景にいままでなんの感慨も抱きませんでした。東北の震災以後、このようなささやかな日常を継続できることに心から感謝した2011年の秋でした。

一万数千人もの命を奪った自然が、今度は我々に命を繋ぐ糧となる収穫をもたらす。

一見矛盾するようにも思えるその振る舞いは実は歴史上、人間と自然の関係において幾度となく繰り返されたものであり、そこで培われてきた経験は知恵となり世代を超えて受け継がれてきました。

皮肉にも震災が近代化に奔走する我々の眼を覚まし、それを思い出すきっかけを与えたことは確かですが、その代償に我々はあまりにもたくさんの命を失い過ぎました。

今年も新米が食卓に並びます。「いただきます。」と両手を合わせるとき、沸き起こる感情が「感謝」なのか「祈り」なのかは分かりません。

ただその時まぶたの裏側に感じるもの。それは光です。暗闇の奥に佇む微かで確かな光なのです。

すぎうらけた／写真家 1980年岡山県生まれ。津山市在住。2008年「GEISAI #11」銅賞、「I氏賞」大賞／2009年「Daydream」(MaxProtetch Gallery/ニューヨーク)／2010年福武文化奨励賞、「ink jet」(CASHI/東京)、「杉浦慶太展・農村の意匠」(奈義町現代美術館/岡山)

Editor's comments



10月末、宮城県南三陸町で行われた「文化・芸術による福武地域振興財団」の助成発表会に参加しました。被災の状況は何度も報道され「知っていた」はずでしたが、「見て感じた」衝撃はレベルの違うものでした。残された家々の土台はまるで棺のように見え、カメラを向ける気持ちにはなれませんが、現状をお伝えすべく南三陸町防災庁舎を撮影しました。

でも地元の皆さんは明るくふるまっています。これが東北の人々の力強さなのでしょう。新聞には、社説で「東日本大震災心の復興 アートの力に目を向けて」とか、復興を願う教育・文化イベントなどが数多く掲載されています。岡山から送られた「こたつ」の記事もありました。復興市は多くの人々で賑い、笠岡からも参加していました。

12月から当財団の「教育研究助成」と「文化活動助成」の公募が始まります。その中で「教育交流や文化・芸術交流等による東日本大震災復興支援活動」も対象とすることになっています。岡山県内の様々な活動が息の長い被災地の支援につながることを、そして、被災地で生きていこうとする人を知ることが、改めて地域と教育・文化の関わり方を問い直すきっかけになることを期待して(財団 中野)

季刊

不易

F U E K I vol.44 2011.11.25

編集・発行：

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作：
株式会社 吉備人
デザイン：
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷：
広和印刷株式会社



人づくり、地域づくりを応援します

財団法人 福武教育文化振興財団

FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION